

令和7年度 全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画

呉市立阿賀小学校
(阿賀中学校区)

全国平均値との差

	国語	算数	理科
呉市教育振興基本計画(指標)	+6.0	+5.0	
令和8年度	-	-	-
令和7年度	-2.8	-6.0	-10.1
令和6年度	+3.3	+3.6	-
令和5年度	+7.8	+5.5	-
令和4年度	+5.4	+4.6	-

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組

◎…各学校 ◇…中学校区

<p>国語</p> <p>言葉の特徴や使い方</p> <p>本校 $\frac{64}{66.8}$ % 全国 県 $\frac{69}{69}$ %</p> <p>読むこと 書くこと 話すこと・聞くこと 情報の扱い方 我が国の言語文化</p>	<p>重点課題</p> <p>◎◇小中ともに、文章全体の構成や展開を捉えて要旨を把握したり、それを説明したりすることに課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小(設問3二(2))【読むこと】(平均正答率39.2%, 全国との差-12.1 無回答1.4%) ・中(設問3四)【読むこと】(平均正答率15.6%, 全国との差-1.5, 無回答16.9%) <p>改善の方策</p> <p>☆小中ともに、キーワードや着目する視点など、焦点化して構成(段落の要点・段落同士のつながりなど)や展開を読んでいけるようにする。</p> <p>◎言語活動(単元のゴール→書く活動)を必ず設定する。その達成のために構成を読み取っていく単元設計にしていく。また、語句の意味を調べる時間を設定していく。→2学期以降のどの単元で行うか、各学年設定して、その進捗状況や成果等をロイロノートを活用して学校全体で共有・さらなる改善を進めていく。</p> <p>◇生徒間交流を通して、本文の理解を深める協働的な学びを意図的に設定する。また、他教科でも複数資料の読み取りを扱った問題を定期試験に出題していく。</p> <p>検証</p> <p>◎設定した単元テスト(全学年, 2学期) 平均点85→結果86.9% 全国学力(設問3二(2))(第5, 6学年, 12月) 目標80→結果5年42%, 6年82.2%</p> <p>◇全国学力(設問3四)(第3学年, 12月) 目標40→結果52.7% 全国学力(設問3四)の類似問題(第3学年, 1月) 目標35→結果47.1%</p>
<p>算数</p> <p>数と計算</p> <p>本校 $\frac{52}{58}$ % 全国 県 $\frac{59}{59}$ %</p> <p>データの活用 図形 測定 変化と関係</p>	<p>重点課題</p> <p>◎◇小学校は問題で示された数量の関係を式に表すこと、中学校は式の意味を読み取って成り立つ事柄を説明することに課題がある。(言葉↔式の変換)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小(設問1(4))【数と計算】(平均正答率63.5%, 全国との差-11%, 無回答率9.5%) ・中(設問6(2))【数と式】(平均正答率17.1%, 全国との差-8.6%, 無回答率7.9%) <p>改善の方策</p> <p>◎問題文にある数量の関係を図・絵・表などに表す活動を常時仕組む。(単元始めなどは、図・絵・表などを選択肢にして正しいものを選ぶ活動にする。)</p> <p>→2学期以降のどの単元で行うか、各学年設定して、その進捗状況や成果等をロイロノートを活用して学校全体で共有・さらなる改善を進めていく。</p> <p>◇数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を複数予想し、文字式を用いてどのような式に変形できるかを考察する場面を設定する。また、変形した式から新たに分かることを見出す活動を取り入れる。</p> <p>検証</p> <p>◎設定した単元テスト(全学年, 2学期) 平均点85→結果82.1% 全国学力(設問1(4))(第4~6学年, 12月) 目標80→結果4年74%, 5年81%, 6年87.4%</p> <p>◇全国学力(設問6(2))(第3学年, 12月) 目標40→結果62% 全国学力(設問6(2))の類似問題(第3学年, 1月) 目標35→結果63%</p>
<p>理科</p> <p>エネルギー 地球 生命 粒子</p> <p>本校 $\frac{47}{57.1}$ % 全国 県 $\frac{59}{59}$ %</p>	<p>重点課題</p> <p>◎事象の根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解していくことに課題がある。(設問4(3)キ)【地球を柱とする領域】(平均正答率41.9%)</p> <p>改善の方策</p> <p>◎本中学校区で取り組んでいる発展的振り返りを教科書の「活用しよう・くらしリンク」を基に行う。これを単元のゴールとして表現できるように、単元の教材研究(観察・実験・考察等の位置づけ)をする。</p> <p>→2学期以降のどの単元で行うか、各学年設定して、その進捗状況や成果等をロイロノートを活用して学校全体で共有・さらなる改善を進めていく。</p> <p>検証</p> <p>◎設定した単元テスト(第3~6学年, 2学期) 平均点85→結果84.5% 全国学力(設問4(3)キ)(第5, 6学年, 12月) 目標80→結果5年36.4%, 6年77.6%</p>

【来年度に向けて】

課題について学年や全校で共有したり、月1回の教材研究会で学力を向上させる授業改善について研修を深めたりしてきたので、この学びを継続しつつ、教材研究会の在り方をアップデートしていきたい。